

全国協議会 ニュース

2023年10月1日発行 第374号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

ドナー助成制度、国が制度化へ

2011年、新潟県加茂市から始まった「ドナー助成制度」は、提供ドナーの負担軽減対策として不可欠なものとして、全国各地のボランティア団体は各自自治体に陳情を繰り返し、すでに現在42都府県と950区市町村の制度として実施されています。全国協議会は国の制度とするよう長年にわたり要望を繰り返し、2015年の「全国縦断キャラバン」では、厚生労働大臣と各知事に要請しました。こうした動きに対応し、厚生労働省は来年度から「ドナー助成」を国の制度として実施する概算要求をしたものです。

厚生労働省は、財務省に来年度（令和6年度）の造血幹細胞移植対策費用としては26億円（前年度24億円）を概算要求しました。（概要は下記）。最大のトピックは、新規事業「ドナー環境整備事業」4千万円が計上されたことです。概要では「造血幹細胞移植のため骨髄バンク登録ドナーがドナー候補者となった場合に、提供ドナーに対してドナー休暇を付与した企業または助成を受けていないドナーに対し助成を行う。」とされており、事業の実施対象は「地方公共団体」、補助率は「定額1/2」となっています。

これまで、国は「ドナー休暇制度を推進する」としてきましたが、これまでこの休暇制度は、主に公務員や関連団体、大企業などに導入されているの

みで、中小・零細企業や、自営業、非正規労働者などでは、ほとんど導入されていないものでした。国民の多くの方々に提供ドナーになってもらうには、職業や会社規模などを越えて、広く負担を軽減する制度が求められています。なお来年度政府予算が成立し、地方公共団体（都道府県など）に事業の実施要綱が通知されないと、実施時期、具体的内容は判明しませんので、来春に第2報としてお知らせする予定です。

ドナー登録のオンライン化、 スワブ検査が 実証実験開始へ！

2019年3月、日本骨髄バンクと日本赤十字社に対し、全国協議会は大学生グループColumbu'sとともに「骨

髄バンクドナー登録のオンライン化、スワブ検査導入」の提案を行いました。その後、厚生労働省や議員連盟にも要望しました。2020年のコロナ禍により対面でのドナー登録会が中止となり、ドナー登録者が急減する事態に陥りました。国は特別研究班（班長：北海道大学大学院医学研究科豊嶋崇徳教授）を設置し、オンライン登録とスワブ検査の研究が行われ、昨年、早期に導入すべきと報告されました。これを受けて厚生労働省は、2024年度に日本骨髄バンクで数百人規模での実証試験を実施し、2025年度以降に「ドナー登録のオンライン化、スワブ検査」が正式導入される見込みです。

ボランティア団体の 要望活動が 国を動かした！

全国協議会は、厚生労働省、日本骨髄バンク、日本赤十字社、日本造血・免疫細胞療法学会などへ提案や要望活動を行ってきています。今回の国の相次ぐ新施策は、長年にわたる要望活動を続けてきた成果だと思います。全国各地のボランティアと国、地方自治体の皆様のご理解とご支援に感謝いたします。

令和6年度概算要求 造血幹細胞移植対策の推進 26億円 (24億円)

- ① 骨髄バンク運営費 5.2億円 (4.9億円) [拡充]
スワブ法でのドナー登録方法の導入に向けた実証実験事業を行うとともに、骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者（骨髄バンク）の安定的な運営を引き続き支援する。
- ② 骨髄データバンク登録費（日本赤十字社） 6.5億円 (6.5億円)
骨髄移植及び末梢血幹細胞移植をする際に必要な骨髄ドナーのHLA（白血球の型）の検査及びデータ管理・管理体制の確保を図る。
- ③ 臍帯血バンク運営費 7.5億円 (6.2億円) [拡充]
産科施設における採取手数料を増額するとともに、臍帯血バンクの安定的な運営を引き続き支援する。
- ④ 造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援事業（学会データセンター運営費） 77百万円 (77百万円)
患者の治療内容やドナーの健康情報等を収集・分析し、医療機関・研究者に提供することで、治療成績や安全性の向上につなげていくた

めのデータ処理・解析体制の確保を図る。

- ⑤ 造血幹細胞提供支援機関事業（日本赤十字社） [拡充] 2.0億円 (1.9億円)
骨髄バンク事業者と臍帯血バンク事業者に対する支援を行う支援機関（日本赤十字社）の安定的な運営を引き続き支援する。
- ⑥ 造血幹細胞移植医療体制整備事業（拠点病院運営費） 3.9億円 (4.0億円)
移植後も身近な地域で生活の質を保ち、安心して暮らしていただけるよう、引き続き各地域における造血幹細胞移植推進拠点病院の体制整備を図る。
- ⑦ ドナー環境整備事業 [新規] 40百万円
造血幹細胞移植のため骨髄バンク登録ドナーがドナー候補者となった場合に、提供ドナーに対してドナー休暇を付与した企業または助成を受けていないドナーに対し助成を行う。

※ () 内は前年度当初予算額

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(9月15日発行)より抜粋)

■ 日本骨髄バンクの現状 (2023年8月末現在)

	7月	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,985	2,671	547,708	936,705
患者登録者数	176	177	1,622	67,247
採取数	骨髄	75	50	25,910
	末梢血幹細胞	32	26	1,950
	合計	107	76	27,860

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■ 8月の区分別ドナー登録者数
献血ルーム / 911人、献血併行型集団登録会 / 1,706人、集団登録会 / 0人、その他 / 54人

■ 8月の年齢別ドナー登録者数 (現在数)
10代 4,371人 / 20代 89,582人 / 30代 135,397人
40代 215,302人 / 50代 103,056人

■ 8月の20歳未満の登録者 145人
注) 数値は速報値のため訂正する場合があります。

『結成 35 周年のつどい』開催 埼玉連絡会



埼玉骨髄バンク推進連絡会は、9月17日（日）にさいたま市内の埼玉会館で『結成 35 周年のつどい』を開きました。「つどい」には、来賓 15 名、会員 26 名の 41 名の参加があり、当日のプログラムと「埼玉連絡会の 35 年の歩み」を報告するパンフレットを配布しました。

「つどい」の進行は、山中孝之・田中直樹の両運営委員の司会で進められ、「会長あいさつ兼 35 年の歩み報告」を私が行いました。

会長あいさつでは「本日の「つどい」に、会員の方から『息子は 17 歳で悪性リンパ腫になり、27 年経ちました。お陰様で現在は結婚をし、娘も一人授かり、元気に仕事に励んでいます』という便りが寄せられました。このような「お便り」は大変うれしく、また活動する者にとって大きな励みです。

また、本日「つどい」を催すことが出来たのは、多くの会員の奮闘と努力の賜物であり、関係者の皆様のご支援・協力のお蔭です。本当にありがとうございます」と述べました。

また、当会の「35 年の歩み」の報

告では、「会の結成と公的バンクの設立」と題して、結成当初の様様や、全国のボランティア仲間と協力し『公的バンクの実現を目指す 100 万人署名』に取り組み、短期間に 85 万筆を集約し、公的バンク実現に大きな役割を果たしたことを紹介。さらに、公的バンク設立後の活動では、「普及活動」でのイベント参加や 29 回取り組まれた読書感想文コンクール、30 回を迎えるチャリティーコンサートを紹介し、「ドナー登録拡大の取り組み」では、1990 年代からの取り組み方の変遷、現状と課題、ドナー休業補償制度の導入などについて触れるとともに、来年からスワプ方式によるオンライン登録が試行されること、ドナー休業補償制度に国が関与することを紹介。「患者支援の活動」では、医療相談会の取り組みを紹介し、最後に、『一人の百歩より百人の一步』を合言葉に、多くの会員の活動参加で運動が前進し、一人でも多くの患者さんに笑顔が取り戻せるよう奮闘したい、と結びました。

続いて、司会者から来賓の皆さんの紹介があり、3 名の方（埼玉県疾病対策課根岸佐智子課長、全国協議会梅田正造理事長、埼玉新聞砂生敏一編集局長）から温かい激励のあいさつを頂き、欠席の日本骨髄バンク小寺良尚理事長からのメッセージが紹介されました。

その後、顧問であり、元県立がんセンターの三比和美先生の乾杯の音頭で



会食・懇談に移り、途中のアトラクションでは、桂右女助師匠の自身のドナー体験談や古典落語「三年目の女房」の小噺があり、ミニコンサートでは三戸素子さんと小澤洋介さんによる「第九」や「大きな古時計」などが演奏され、豪華で贅沢なひとときを過ごしました。

また、懇談中の「一言スピーチ」を、元県立小児医療センターの花田良二先生、会員で県議の中川浩さんと江原くみ子さん、同じく全国協議会副会長の太谷貴子さんから思い出話など語っていただきました。

さらに、当会副会長の高土滋子さんから、昨年度から取り組みが始まった患者向けのケア帽子「ハッピーキャップ」の紹介と参加した現役員・専門部員の紹介が行われました。

「つどい」の最後は、当会恒例の『翼をください』の全員合唱で幕を閉じました。

参加者のみなさん、大変ありがとうございました。

(埼玉骨髄バンク推進連絡会 笠原慶一)

(※上記で紹介できなかった来賓の皆さん：血液センター登録課長横須賀剛様、第一生命大宮支社高橋由美乃様、東京・千葉・神奈川の会の代表者様)

京都(醍醐寺等)、九州(浜の町病院等)へのお礼、ご挨拶訪問



9月21日（木）、理事長就任挨拶を兼ねて山村詔一郎副理事長とともに京都の醍醐寺に仲田順和座主の協議会会長重任のお礼のため訪ね、仲田順英総務部長（Zoom 参加）、小暮徹順総務課長、大道真希秘書と面談をして、お礼と協議会の活動報告をしました。そ

の後 2016 年から特別賛助会員として支援してくださっている京都商工会議所を訪問して、窪田裕幸常務理事にお会いして感謝の意を伝えました。面会后、新幹線で九州入りしました。夜、飯塚駅で田中幸一さんに 20 数年ぶりにお会いして、歓待いただきました。田中さんは 1990 年 6 月に全国協議会を立ち上げた 13 団体の一つである九州骨髄バンク推進連絡会議（現在は解散されている）の役員で、長年協議会の理事、監事、副会長等を歴任されました。

翌 22 日（金）、午前中に福岡市の「浜

の町病院」に谷口修一病院長を訪ね、協議会顧問重任のお礼と協議会の活動トピックスを報告して、懇談させていただきました。その後、地下鉄で「馬出（まいだし）九大病院前」に移動して協議会会員の「福岡子どもホスピスプロジェクト」事務局に伺い、内藤真澄理事と懇談後、濱田裕子理事長（第一薬科大学教授）と Zoom で意見交換しました（写真）。同団体は重い病気や障害を持つお子さんとご家族の苦痛を和らげる「緩和ケア」を目的にイベント、講演等の活動をされています。今後活動の支援協力ができないか検討します。

(理事長 梅田正造)

山本雅也さん 歌を通して骨髄バンク普及

公式アンバサダー就任後、全国協議会で初めて後援させていただいたのは、記念すべきバースデーコンサートでした。その模様をお寄せくださいました。



(ステージ左：山本雅也)

全国骨髄バンク推進連絡協議会公式アンバサダーで歌手の山本雅也です。

先日、8月27日(日)大塚ウェルカムバックにてbirthday concert をしてきました。

全国骨髄バンク推進連絡協議会に後援についてもらい、お蔭様で満員で楽しくライブをさせていただきました。

最初は一人ではじめてドナー普及活動。今年で10年という月日が経ちました。

そんな節目の年に全国骨髄バンク推進連絡協議会と繋がれたことは本当に嬉しく思います。

ライブのトーク中、これまでのドナー普及活動で出会ったボランティアの方々との話をすると涙ぐんで熱心に聞いてくださっているお客様もいました。

ラストは僕が10年間でボランティアの方々と共に繋がり、触れ合ってきたことを歌にした「人生をたどる物語」をみんなで合唱し、ライブが終わりました。

舞台袖にはけるときの、拍手がなりやまず、一か月経った今でもあの時の拍手の音が聞こえてきます。

骨髄バンクを知らない人たちでも、こうしてみんなと合唱できると知り、全国骨髄バンク推進連絡協議会のみならずと広がるとは思いませんでした。骨髄バンクを知らない人たちでも、こうしてみんなと合唱できると知り、全国骨髄バンク推進連絡協議会のみならずと広がるとは思いませんでした。

ライブが終わった後、「僕はもうドナー登録できる年じゃないけど、せめて」と募金してくれた方、「ドナー登録はしてるけど、説明員になりた

い」と言ってくれた20代の男性、身内が白血病にかかり、それでも福島から足を運んで下さった方、様々な人が色んな思いを抱え、僕の演奏を聴きにくれたこと、そんなライブに後援について下さった全国骨髄バンク推進連絡協議会、本当にありがとうございました。これからも音楽を通じドナー普及に努めていきたいと思ひます。

顔も知らない、声を聞いたこともない誰かと誰かが骨髄を通じ繋がり、支え合える世の中に。

きっと人は音楽の前では素直になれるんだと信じて。(山本雅也)

「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2023」開催

一般社団法人 SNOWBANK は、『楽しいから始まる社会貢献』をテーマに、普段献血ルームに足を運ばない若者に献血・骨髄バンクを知り行動してもらうキッカケの場づくりをしています。

スノーボードを軸に音楽・アート・食をテーマにした子どもから大人まで楽しめる「東京雪祭」を開催します。

今年13回目となるこのイベントを通して、若者が楽しみながら献血・骨髄バンクについて知り、行動することにより、一人でも多くの患者さんが治療のスタートラインに立てる社会づくりを目指しています。

会期中に献血者333人、骨髄ドナー登録者111人を目標にしています。是非ご来場ください。

■開催日：2023年11月11日(土) ~12日(日)

■会場：代々木公園 イベントB地区

■開場：9:00

■閉場：17:00

■料金：無料



雪主(運営費用のご支援者様)募集!

基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

入院に際し、長期になるだろうと予測しましたが、まだまだ治らず、年金はもらっていますが心細くなりました。いろいろな支援があるという事をケースワーカーさんに教えていただき助かりました。後は本人が頑張って体力をつけていくことが一番かなと思います。ドナーさんからいただいた骨髄を一番活用できるように、体を良い方向へ持っていきたいと思ひます。

自分ができる事は体力をつける事だけ。後は医師の指示に従うだけです。2・3年後は70歳になりますが“やればできる”でやります。ありがとうございました。(四国地方在住 患者さん)

志村大輔基金(分子標的薬支援)

過去5年にわたる病との闘いに家族一丸となり息子の命を守るために過ごしてまいりました。たいへんな事情であるのは我が家だけではありません。もっともっとおつらい経験を重ねてこられた方々もたくさんいらっしゃいます。経験した者にしかわからない気持

ちや不安が山ほどあるかと思ひます。

こうして“生きる”力を授けてくださり、前向きにこれからの向かうことが出来るのはご理解いただける皆様のような存在がいてくださるからです。心より感謝しております。ありがとうございます。

ご好意に甘えず命を大切に、これからの未来に向かっていくのみです。感謝とともに深く御礼申し上げます。

(近畿地方在住 患者のお母様)

新入職員紹介



この度、全国協議会の事務局に新しい職員が入りましたので紹介いたします。

8月21日に入職いたしました平松彩

と申します。出身は新潟と富山の県境にある新潟県糸魚川市です。全国にいらっしゃるボランティアの皆さんの熱く優しい思いに触れたり、問い合わせで患者さんの切実な思いを伺ったりする中で、私にできることは何かを考えています。骨髄という漢字から骨のことだと思ひていたような知識の浅い私ですが、一日も早くお役に立てるよう日々精進いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

鹿児島

「命をつなぐ」コンサート & 医療講演会



昨年鹿児島一の繁華街天文館に大型商業施設「センテラス天文館」がオープンしました。そのテナントのひとつとして市立の天文館図書館が入居しており、街に集まる学生、家族連れ、高齢者等の憩いの場となっています。ここの交流スペースを利用し「骨髄バンク支援『命をつなぐ』コンサート」を

9月17日(日)に開催しました。若者のドナーが足りないという現状を受け、学校の春休み・夏休みに当たる2月、3月、8月にも同イベントを行っていますが、4回目となる今回も館内に響きわたる音曲に誘われた来館者の方が大勢集まってくれました。

義弟を白血病で亡くした声楽家中村かし子氏が、希望しても骨髄ドナーが見つからず移植できない方を少しでも減らそうと骨髄バンクのボランティア活動への協力を始めてからもう十数年経ちます。これまでに年1回以上のコンサート兼骨髄バンク啓発活動を行ってきました。県内外で活躍しているいろいろなレパートリーの音楽家に声掛けしコンサートをプロデュースしてくださっています。

今回は金管楽器、声楽によるモーツァルト、ユーミンなどのポピュラーな曲の演奏と同時に、医療講演会では鹿

児島大学小児科の専門医による白血病の話と小学生のとき再生不良性貧血を発症し骨髄バンクを通した移植によって寛解し、看護師となり結婚・出産を経て幸せな家庭を築いている元患者の体験談という構成でした。また、2回の骨髄提供を経験しているドナーも参加しての質疑時間も設けましたが、活発な質疑が交わされ、観客にとっても有意義な内容だったと思います。

鹿児島県のドナー登録率は全国的には低位にあります。現在若者の献血離れと同じく若年層の骨髄バンクドナー登録者も減ることが懸念されています。天文館図書館に行けばコンサートと白血病・骨髄バンクに関する話が聞けるという定着したイベントとして認知されるよう今後も継続できたらと考えています。

(かごしま骨髄バンク推進連絡会議 大田耕一郎)

北海道

札幌都心で
スノボとドナー登録会

9月16日(土)17日(日)の両日、血液センターとSNOWBANK(荒井daze 善正代表)の協力によるスノーボードイベント「スノースマッシュ」が札幌都心部(NHK札幌放送局跡地)で開催されました。これは、9月13日(水)から5日間にわたって札幌市内15か所で同時多発的に開催されたノーマップス2023(会議、展示、興行、交流などの産官学連携イベント)の一部として今回初めて企画され、血液センターを通じての参加打診に北海道骨髄バンク推進協会札幌支部が呼応したものです。

人口降雪機により作られた特設ステージでスノーボードコンテストなどが行われている会場で、献血とドナー登録会が開催されました。札幌と小樽の説明員が活動し、2日間合わせて22人がドナー登録、71人が献血をしてくださいました。「チャンス」やドナーカードが足りなくなると近隣の献血ルームに走ったり、ひととおり説明した後で16歳、17歳と判明したためまだ登録できないことを理解してもらったり、献血中の母親に代わって子守をしたりとにぎやかな2日間でした。



若い世代が多いイベントで18歳未満の来場者もかなりの数に上り、登録には至りませんでした。熱心に説明を聞いてくださった方も多かったため、近い将来のドナー登録につながることを期待しています。

2016年から始まったこのイベント



に献血と骨髄バンクが登場したのは今回が初めてのことです。ドナー登録者の高齢化率が全国平均を上回っている北海道では、若い世代のドナー登録推進に向けた取り組みが今後ますます重要になると考えています。

(北海道骨髄バンク推進協会札幌支部)

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 8月21日～9月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	●募金箱	市村歯科クリニック現金 12,492円
株式会社サカタのタネ	株式会社 クスリのアオキ	骨髄バンク GATHER の会
現金 250,000円	現金 740,671円	現金 1,178円
藤波 敬子 現金 10,000円	株式会社 マルト商事	ゴールドジム練馬高野台東京店
オークランド観光開発株式会社	現金 64,666円	現金 1,930円
現金 10,000円	株式会社 ナルックス	株式会社カンセキ若草店
朝倉 誠 現金 50円	現金 7,080円	現金 7,416円
匿名 現金 1,000円	株式会社 フクヤ現金	鎌倉屋 現金 1,440円
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	ナナカマド薬局 現金 8,780円	アリスいわた薬局 現金 6,123円
池田 三津子 現金 10,000円	足立眼科医院 現金 15,138円	●つながる募金
本田 真奈美 現金 5,000円	星子ひさし整形外科現金 6,362円	現金 15,300円
乾野 海人 現金 3,000円	山本 雅也 現金 15,225円	●キモチと。
塩谷 泰人 現金 1,000円	株式会社久美堂 本町田店	現金 1,417円
筒井 肇 現金 1,000円	現金 11,008円	

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。